

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	創発学術院
人員構成	教員 9人、職員・その他 2人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
1110	「創発学術院規程」にもとづき、研究活動を推進している [1110a]。3つの専門部会を立ち上げ、各部会内で研究の活性化に努めるとともに、部会に属する各教員の活動について相互に点検・評価をおこなう体制を整えている。また、各部会から出た企画案をもとに全体セミナーを開催することで、外部からも各部会の活動が可視化できている。同セミナーについては、運営委員にも随時報告をおこない、適切な活動が実施されているかを点検している。1120 「創発学術院運営委員会に関する内規」にもとづき運営委員会を開催した [1120a]。2020年度は原則、オンライン会議として計6回開催した。会議には運営委員が参加し、組織の運営、活動について点検、評価をおこなった。また、審議内容は運営委員会議事録としてまとめて各委員にメール送付するほか、オンラインのファイル共有サービス（Dropbox）を利用して閲覧することも可能になった [1120b]。
1110・1120	研究、教育、管理運営を含む諸活動はウェブサイト等を通じて広く公表している。具体的には、ウェブページに活動予定、記録を随時掲載して最新情報を発信するほか、年報PDFを掲載して組織としての活動の全容を公開している [1110・1120 a, 1110・1120 b]。
長所・特色	< 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No. 1120	運営委員会をオンライン開催に切り替えたことで、コロナ禍においても例年と同等の委員会活動をおこなうことができた。特に遠隔地からの会議参加が容易になり、学外委員の出席率が向上するという利点があることが見出せた。
項目 No. 1120	オンライン上で議事録を含む会議資料を共有することで、資料閲覧が簡易になった。
課題事項	< 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1110・	より使いやすいウェブサイトを目指してリニューアルをおこなったが、作業期間中は個別ページに

1120	アクセスできない状況が続き、迅速な情報発信が妨げられるという問題が生じた [1110・1120b]。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1110	2020年度の重点目標として「数学」「生物学」「心の先端研究」の研究分野の推進を掲げ、3つの専門部会を組織し研究活動の活性化に取り組んだ。年度末の運営委員会において、各部会からの活動報告をもとに当該年度の取り組みについて相互に点検・評価をおこない、次年度以降の活動計画を精査した [1120b]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110・1120	組織内外への情報公開体制を改善する。具体的には、ウェブサイトを充実させるとともに、さまざまなオンライン媒体を利用して情報公開、広報活動をおこなう [1110・1120b、1110・1120c]。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	創発学院規程	○
1120	a	創発学院運営委員会に関する内規	○
1120	b	創発学院運営委員会議事録（2020年度）	○
1110・1120	a	創発学院年報（2019年度）	△
1110・1120	b	創発学院ウェブサイト	△
1110・1120	c	創発学院 SNS ページ（Facebook、Instagram）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021年度（対象：2020年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	分子性触媒研究センター
人員構成	教員 3 人、職員・その他 4 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	委員会無し

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。		
1110	週1回定期的にセンター長と研究員との個別研究相談を行い、研究の進捗状況について相談や検証を行っており、研究活動を推進している。さらにランチミーティングを行い（コロナ禍の影響で回数は減少）、センター内の問題点等について討論し改善に努めている。その他、企業との共同研究および研修員制度をスタートさせ、ペプチド合成の革新的手法の開発において、製品の純度とその価格を世界で最も破格のレベルに向上させるべく研究を進めている。[1110a]。		
長所・特色	< 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの		
項目 No. 1110	論文発表や特許取得等、先進的な研究が進められた。[1110a]。		
項目 No.			
課題事項	< 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点		
項目 No. 1120	委員会は設置していない。（今後も設置する予定はない。）		
項目 No.			

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1110	定期的に個別研究相談を行い常に進捗状況を把握・確認しながら先進的な研究が進められた。[1110a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110	企業からの研究員を受け入れ、技術指導を行う「ペプチド合成技術指導制度」を推進し、研究成果の社会還元を促進する。
1110	

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	研究実績（発表論文） ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/catalyst/publication/">https://www3.chubu.ac.jp/catalyst/publication/</a>	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	薄膜研究センター
人員構成	教員 1 人、職員・その他 3 人

**基準 11 大学独自の評価項目**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
1110	年度目標に確認と研究進捗状況をほぼ毎日のミーティングで実施。[1110a]
長所・特色 < 箇条書き >	* 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No. 1110	ガラス代替を可能にする透明樹脂フィルムの R/R スパッタ生産技術開発
項目 No.	
課題事項 < 箇条書き >	* 改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1110	TOF-SIMS 法による CeO <sub>2</sub> -PTFE ターゲットのスパッタ蒸発プロセス解析
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1. CeO <sub>2</sub> , PTFE 及び CeO <sub>2</sub> -PTFE ハイブリッドターゲットから放出されるフラグメントの TOF-SIMS 分析から蒸発時の分解パターンが判明し成膜プロセスの考察に有効にフィードバックした。[1110a]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	1. TOF-SIMS 分析結果を参考に CeO <sub>2</sub> -OPTFE ターゲットの焼結プロセスを考察する

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	A-STEP2020 年度報告書に記載	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料    △ : 現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	超伝導・持続可能エネルギー研究センター
人員構成	教員 5 人、職員・その他 4 人

**基準 11 大学独自の評価項目**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>1110[1110a] 1) 定期的にセンター内で Staff Meeting を開き、研究内容の進展交換、学会での発表、予算の執行状況の確認を全員で行っている。 2) 学生の教育を兼ねて、毎週ミーティングを開催し、学生からのレポートを元に研究の進捗状況の確認と改善等に着いての指導を行い、研究者の合意を取っている。 3) 学生の就職・進学活動についての助言を全員で行い、個別指導を行っている。また、同時に生活指導を行った。特に、2020 年度は COVID-19 の感染拡大で非常事態宣言が発せられたために、この指導はかなり重要であったと考えている。</p>	
<p>1120[1120a] 運営委員会を 3 回開催し、超伝導センターの活動について報告・審議を行った。</p>	
<p>長所・特色 &lt;箇条書き&gt; * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1110	<p>中部大学が参加した石狩プロジェクトによって、超電導直流送電システム（SCDC）が実験データとして世界に先駆けて実用化の域に到達した。この成果を更に発展させるために、個別研究項目を策定し、それぞれの研究の進展を図っている。</p>
項目 No. 1110	<p>超伝導直流ケーブルの航空機への適用についての論文が出版され、注目を集めた。また、断熱二重管の断熱性能向上のための基礎研究として多層断熱膜の熱輸送について学生を交えて企業と共同研究を進め、論文が出版された。</p>

項目 No. 1120	超伝導センター以外の方々に活動報告し、学内認知されている。
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1110	[1110b] 石狩プロジェクトが終了してから、5年間の経過した。世界一のデータが出たが、その後の外部資金を得ることができていない。また、石狩回線2も部分撤去が行われ、継続実験がかなり困難になっている。この状況は抜本的に改善する必要がある。
項目 No. 1120	運営をスムーズに進めることが求められている。特に、外部機関との関係や研究資金の確保に一部で情報交流に問題があるように思われる。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1110	学外の組織との連携を進めている。COVID-19の影響は学生を交えた研究開発の進行ではかなり大きな影響を与えた。この状況は2021年度も続くであろうから、ある程度の体系的な対応が必要と思われ、対策を練っている。同じく COVID-19の影響により、日本の技術開発の優先順位に変化が生じ、エネルギー関連はマスコミで大きく取り上げられるが、暫くは医療関係に開発費予算も割かれると思われるため、技術レベルの維持に検討が必要になる。このため、研究センターとしては、関連個別技術開発などに重点を移すことも今後必要になると考えられる。
1120	センター内での深い議論が必要と考えられる。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
項目 No. 1110	前述したように世界一のデータが得られたが、次のプロジェクトのための研究費の確保が出来ていないため、関連個別技術開発を継続し、技術の進展と維持を図っている。同時に、航空機応用などの超伝導技術の新しい応用先を開発している。
項目 No. 1110	ガンの温熱治療は大分類では免疫治療法の一つであり、2018年10月にガン免疫でノーベル賞が出たこともあり、研究者が大変積極的になっている。このため、学内外の研究者と研究を進めている。また、直流電力利用のための基礎技術として無発弧直流スイッチの試作を進めた。
項目 No. 1120	センター活動をより発展向上させるように検討を行う。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	超伝導・持続可能エネルギー研究センター運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	学事部 学事課
人員構成	専任・嘱託 12 人、 派遣・契約事務補助員 3 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>1120 2020 年度から学事部の組織力向上を目的に、原則毎週月曜日 9 時から学事部管理職打ち合わせを実施している。その中では、スケジュールの確認・確認報告事項・その他について共有を行っており、円滑な業務運営に寄与すると共に、率直な意見交換を行う事で業務改善に繋げている [1120a]。</p> <p>1120 学事課の業務は、事務分掌で主に次の 10 の事項を担当すると定めている。</p> <p>1 委員会等に関すること 学事課が担当する委員会等は、(1)大学協議会、(2)人事審議会、(3)中部大学学部長・研究科長会、(4)動物実験委員会、(5)倫理審査委員会、(6)放射線安全委員会、(7)組換え DNA 実験安全委員会、(8) バイオセーフティ委員会、(9)民族資料博物館運営委員会、(10)蝶類研究資料館運営委員会がある。 各委員会の運営については関係法令、規程等に則って適切に開催している [1120b][1120c][1120d][1120e][1120f][1120g][1120h][1120i][1120j][1120k][1120l]。</p> <p>2 大学教育職員等の身分に係る事務に関すること 教育職員の任用、昇任、退職等については、職員採用規程及び中部大学人事審議会規程に則り適切に事務手続を行っている。また、人事異動等の発令月毎に教育職員定員・現員表を更新し、教職員専用 HP を活用して学内に周知している。非常勤講師の委嘱事務手続については、教務支援課からの情報に基づき委嘱情報を整理し、発令担当の人事課に情報を渡している。なお、必要に応じて委嘱依頼状（兼業依頼）を本務先に郵送したり、通勤届・給与振込依頼書の提出依頼等諸手続を行っている [1120m]。</p> <p>3 大学教育職員の勤務に関すること 教育職員に係る服務全般、主には(1)諸届の受付、記録及び保管、(2)出退勤に係る記録及び保管 (3)出張伺、</p>
--

報告書等の受理及び保管並びに旅費計算事務、(4)教育職員の他大学非常勤講師委嘱承認手続等、(5)非常勤講師、非常勤研究員等の身分証明書の発行などを行っている。それぞれの業務において、関係規程等に則って適切に処理している [1120n]。

4 学則及び規程に関すること

学則の改正及び中部大学の諸規程等の制定・改廃に係る庶務を行っている。具体的には学事課で管理している学則、規程及び、各担当部署から提出される規程の制定・改廃案等を大学協議会に諮り、承認後に教職員専用 HP を活用して学内に周知している [1120o]。

5 所轄庁への申請及び届出に関すること

学長決定及び学則変更等があった場合には、文部科学省へ必要な届出等を行っている。

その他、倫理審査委員会の設置・運営状況報告(文部科学省研究振興局)や放射線管理状況報告書(原子力規制委員会)など所轄庁への必要な報告を行っている。

6 大学の庶務に関すること

学事課は総合大学の総務担当部署として、(1)入学式、学位記授与式等式典行事の企画及び実施、(2)全学教職員総会の企画及び実施、(3)1号館玄関の受付対応、(4)郵便物の等の接受関係、(5)表彰・褒章・学歴・資格取得届の受付、(6)掲示物、ポスター等の掲示及び配布など大学における広範囲な庶務業務を担当している。

7 文書に関すること

大学、法人に係る郵便物等の接受及び発送、記録及び配布を行うとともに、併設校へ文書等の配送管理を行っている。春日井キャンパス内の部門ごとにメールボックスを配置しており、効率よく配布できるよう工夫している。

8 調査統計に関すること

法令で定められた調査(学校基本調査等)や、その他団体から依頼を受けるもの(国際研究交流状況調査等)について、学内関連部署に資料提出を依頼し、取り纏めを行い期日までに回答をしている。

9 施設利用に関すること

学会や資格試験などで教育・研究等に関係し、学事に影響がない場合は施設の貸し出しを行っており、その窓口として、施設使用許可願の受付、主催者との連絡調整など対応している。

10 その他、大学に関していずれにも属さない事項に関すること

複数の部署に跨る場合など、調整が必要なものについて交通整理を行っている。

- ・薬品管理：教員が使用する薬品を管理するために導入していた既存の薬品管理システムの保守が2021年3月で終了するため、薬品管理システム導入検討WGを教職共同で2020年8月に設立し、業者の選定からシステムの導入までの検討を行った。
- ・出張旅費：出張旅費センター設立に向けて立ち上げた出張旅費センターWGにおいて、2021年4月からの運用開始に向け検討を行う中で、教員の出張に係る旅費算出等の助言及び提案等を行った。
- ・新体制に向けた準備：学長が交代するに伴い、2021年4月から新体制がスタート出来るよう委員会のメンバー構成や会議等の準備を進めた。

長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	特になし。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬品管理：システムに関するFAQ等を充実させ、利便性を高める。</li> <li>・出張旅費センターWG：出張旅費センター設立に向け、業務内容やフローの見直し及び問題点の洗い出し等が必要。</li> <li>・学長ヒアリング：各部局において検討された重点事業計画を基にヒアリングを行っているが、その計画の全体像を基にヒアリングを経て優先度を決定することまでは出来ていない。</li> <li>・委員会等に関すること：新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染のリスク軽減や移動の制限により、会場に集まることが困難な状態が発生する可能性[1120p]。</li> </ul>

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	非常勤講師の勤務管理：2020年7月付け課員の異動を機に、以前から関連部署と業務分担について懸案となっていた非常勤講師関連業務について整理を行い、関連業務の一部を除き人事課へ移管することになり、業務の効率化につなげた。
1120	出張旅費業務：出張旅費の処理に関して、手続き方法等見直すと共に、学内HP（学事課）で掲載していたFAQ等を、申請される方々に理解を深めていただくために「出張の手引き」の形に更新した[1120q][1120r]。
1120	出張旅費センターWG：出張旅費業務に係る事務処理の一元管理を目的とした出張旅費センター設立を目指したWGに学事課もメンバーの一員として関わり、2021年4月からの運用開始に向けて活動を行った。
1120	学長ヒアリング：2021年度から新たな学園ビジョンがスタートし、その円滑な実施のための実行計画と大学の事業計画と強くリンクさせることを目指し、学長ヒアリングの目的の明確化、及びスケジュールの見直しに向け検討を始めた。
1120	委員会等に関すること：委員会の席の配置を「三密を避けた形」に改めると共に、会場参加とWeb会議システム（Zoom）を用いての参加を併用し実施した。また、Web会議システムを用いた会議運営をスムーズに行えるよう設備充実を図った[1120s][1120t][1120u]。
1120	所轄庁への申請及び届出に関すること：分与申請を基に中部大学として保有しているウィルスについて現状を把握する。
1120	大学の庶務に関すること：2020年9月に秋季学位記授与式を今年度新たに実施した[1120v]。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張旅費：2021年度から教員の研究出張の処理業務が出張旅費センターへ移管することが決定したが、教員の兼業手続等連動する部分も多いため、円滑な移行が出来るようセンターとの連携を強化する。</li> <li>学長ヒアリング：学長ヒアリングの実質化に向け、具体的な実施策を提案し、新たな体制での実行を目指す。</li> <li>所轄庁への申請及び届出に関すること：ウィルスの保有状況における現状を把握し、分与を受けた組織に対し必要な手続等の確認を行い、報告等の事務手続きを漏れなく行う[1120w]。</li> <li>大学の庶務に関すること：2021年度秋季入学式実施に向けて具体的な検討を始める。</li> </ul>

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	学事部定例打合せ資料	△
1120	b	学事課所管の会議開催状況一覧（2020年度）	○
1120	c	中部大学協議会規程	○
1120	d	中部大学人事審議会規程	○
1120	e	中部大学学部長・研究科長会に関する申合せ	○
1120	f	中部大学動物実験取扱規程	○
1120	g	中部大学倫理審査委員会規程	○
1120	h	中部大学放射線安全委員会規程	○
1120	i	中部大学組換えDNA実験規程	○
1120	j	中部大学バイオセーフティ委員会規程	○

1120	k	中部大学民族資料博物館運営委員会規程	○
1120	l	中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程	○
1120	m	職員採用規程	○
1120	n	出張・旅費規程	○
1120	o	学則・規程 HP 画面	○
1120	p	「愛知県緊急事態宣言」に対する中部大学の対応について	○
1120	q	出張の手引き（研究出張用）	○
1120	r	出張の手引き（研究出張用）ポイント	○
1120	s	会議座席表 2020 年度（コロナ対策）	○
1120	t	第 349 回大学協議会の開催案内	○
1120	u	Web 会議ツール（Meeting OWL） 資料	○
1120	v	2020 年 9 月学位記授与式式次第	○
1120	w	病原性ウイルス保持状況 2020 年度	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	学事部設置改組準備課
人員構成	専任・嘱託 2人、 派遣・契約事務補助員 0人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
1120	<p>学事部設置改組準備課は、本学における教育研究組織の設置改組等に係る認可申請事務を担当する部署である。</p> <p>本学の教育研究活動の充実・発展に対する社会からの期待に応えるためには経営基盤の安定が不可欠であり、その安定を図るために必要な設置計画等の目標達成（認可等を得ること）を絶対的に求められる立場にある。設置計画等の企画・立案に当たっては、検討委員会及び専門委員会を立ち上げ、関係教職員と密接な連携をし、教育課程、教員組織等の基本的な考え方を十分に検討する必要がある。</p> <p>その際には、学校教育法、大学設置基準、各省からの通知等の関係法令を理解するとともに、中央教育審議会等における審議の動向を踏まえて、学生の動向変化や社会的ニーズに柔軟に応えるための十分な検討が求められる。</p> <p>2020 年度においては、学園将来構想検討会議での「学園の将来構想に関する方針（2020 年 2 月 3 日）」に基づき、学長の下に「人間力創成総合教育充実検討委員会」「理工学部構想準備委員会」「文系学部再編整備充実検討委員会」を設置し 1 年間検討の検討結果として、2021 年 1 月 19 日開催の学園将来構想検討会議に「教育改革に係る計画概要（案）」を提出した。その結果、「教育改革に係る計画の実行方針（案）」において、理工学部の設置（3 学科体制）、国際学部の設置（2 学科体制）人文学部の改組（日本学科への名称変更とメディア情報社会学科の設置）が認められ、2023 年度設置に向けて準備を進めることになった。また、創造的リベラルアーツセンターと AI 数理データサイエンスセンターについては、2021 年 4 月 1 日設置が認められた。</p> <p>[1120a]。</p>

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	特になし。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	教職員の理解を得て、引き続き社会に対する約束を履行していく [1120b]。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	設置計画等の企画・立案に当たっては、関係部署・教職員と密接な連携をし、教育課程、教員組織等の基本的な考え方と、現在、求められている大学改革の基本方針を踏まえて、準備段階において教職協働の側面からも十分に検討し、設置後に教員の交代、教育課程の変更等のないように努め、社会に対する約束を履行していく。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	設置計画の重視[1120a]、完全履行[1120b]。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	教育改革に係る計画概要（案）及び教育改革に係る計画の実行方針（案）	○
1120	b	履行状況報告書 電気電子システム工学科、宇宙航空理工学科、ロボット理工学専攻（D）、保健医療学専攻（M） <a href="https://www3.chubu.ac.jp/about/application/">https://www3.chubu.ac.jp/about/application/</a>	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021年度（対象：2020年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	研修センター
人員構成	専任・嘱託 3人、 派遣・契約事務補助員 3人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	研修センター運営委員会を年2回開催し、研修センターにおける新型コロナウイルス感染症対策を決定するなど運営について審議した。[1120a] [1120b]
1120	事務連絡会議からの情報、研修センターの利用状況、工事予定、新型コロナウイルス感染症対策などを共有する場として、定期的に全体会議を開催し、風通しの良い職場づくりと円滑な業務運営を行っている。 [1120c] [1120d]
1120	毎朝始業時に嘱託員、管理人と業務の進捗、利用者状況等を把握、確認をする場を設けている。
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	新型コロナウイルス感染症対策作成と対策の実行。[1120b]
項目 No. 1120	グラウンド、野球場の芝枯れ防止のため駐車場の一角に芝畑を作り、不良場所に植付け。また、昨年に引き続き冬期の一定期間を使用禁止として養生期間を設けた。[1120d]。
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	グラウンド環境の一層の向上のため翌年度も引き続き芝枯れ防止対策を行うこと。[1120d]
項目 No. 1120	倉庫に従前から保管されている不用品を処分するなど倉庫内を整理し、倉庫スペースの確保を図ること。[1120e]

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	新型コロナウイルス感染症対策を行い研修センター関連での感染はなかった。[1120b]
1120	利用者がいない時にしかできない清掃等作業を行った。[1120a]
1120	芝の管理を徹底し2019年度より良い状態の芝を育成できた。[1120d]
1120	利用者用に保管されていたスポーツ用具を確認し、不用品は処分するとともに、保管場所を利用者が利用しやすい場所に移した。また、宿泊者用の寝具を確認し、不用品を処分するとともに、寝具の大きさ汚損状況により分類し直し保管場所を寝具のセットがしやすい場所に変更した。[1120e]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	のり面崩壊のため芝が枯れた野球場外野の芝を再生させる。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	研修センター運営委員会議事録	○
1120	b	研修センターにおける新型コロナウイルス感染症対策	○
1120	c	2020年度職場ミーティング開催状況	○
1120	d	芝管理計画、芝の画像	△
1120	e	倉庫内の画像	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	教育支援部 教育支援課
人員構成	専任 3 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	2020 年度事務分掌に則り業務を行った。[1120a]
1120	教育支援部に所属する課へ以下の書類提出を依頼し、提出資料をとりまとめ、担当部署へ提出した。 [1120b] [1120c]
	1. 2021 年度学部等重点事業計画 → 取りまとめ提出後、学長ヒアリングの日程調整および当日の対応をおこなった。
	2. 2021～2025 年度中期予算調査票
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特になし
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	管理運営組織として担当する統括的業務の範囲をより明確にする必要がある。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	教育支援部に所属する各課・センターはそれぞれの目的に沿って運営されており、教育支援課としては、各課・センターの学部等重点事業計画や中期予算調査票などの取りまとめなどを行っているが、各部署の運営上の課題解決について、統括的に力を発揮するまでには至らなかった。[1120 b] [1120c]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	教育支援部に所属する各課・センターの個別課題を検討し、課題の共有、認識をすることで、統括的に解決策を見出す。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2020 年度事務分掌	○
1120	b	2021 年度以降における教育・研究に係る学部等重点計画案について	○
1120	c	2021 年度以降における教育・研究に係る重点計画案ヒアリング日程等	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料    △ : 現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	総合情報センター
人員構成	専任・嘱託 4 人、派遣・契約事務補助員 2 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	「中部大学総合情報センター規程」、「事務分掌」に則り、中部大学の教育及び研究の推進のための情報関連環境の整備を行っている [1120a] [1120b]。 1120 総合情報センターの運営に当たっては、「中部大学総合情報センター規程」第5条に基づき、総合情報センター運営委員会を設置し、「中部大学総合情報センター運営委員会規程」に則り、方針や重点目標等の検討、審議を行い、その事務（議事録の作成、決裁処理等）を担当している [1120a] [1120c] [1120d]。 1120 情報セキュリティ委員会の開催に当たっては、「情報セキュリティ委員会規程」に則り開催し、その事務（議事録の作成、決裁手続き等）を担当している。 [1120e] [1120f]。 1120 ICT 運営委員会の開催に当たっては、「ICT 運営委員会規程」に則り開催し、その事務（議事録の作成、決裁手続き等）を担当している [1120g] [1120h]。
長所・特色 <<箇条書き>> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	中部大学情報セキュリティ規程の制定と、情報セキュリティ管理体制の整備 [1120e]。
項目 No. 1120	情報セキュリティ倫理の意識向上を目的とした e-Learning による情報セキュリティ研修 [1120i]。
課題事項 <<箇条書き>> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	委員会の開催日程を確定する際の起案決裁の徹底。
項目 No. 1120	技術（スキル）が必須な業務をルーティンワークとして遂行するための継続的マニュアル整備。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	新型コロナウイルス感染症予防対策として、1) 実習室（4室）をソーシャルディスタンスを確保した配置に変更、2) 入室時に消毒するためのアルコール、ペーパーを配備、3) 換気扇のない実習室には換気のためのサーキュレータを設置、4) 学生ラウンジ、自習室についても、使用可能なPCを1台おきにする等の予防対策を実施した。[1120j]
1120	コロナ禍における遠隔授業対応として、オンデマンド教材を配信する動画サーバのストレージを増強して、教員に提供した。またG Suite education for Enterprise（有償版）を契約し、オンライン授業システム（Google Classroom）、Web会議システム（Meet）を新たな遠隔授業ツールとして提供するとともに、遠隔授業のためのマニュアルの整備を行った。[1120k]
1120	仮想サーバのストレージ不足が懸念されていたが、遠隔授業のオンデマンド教材を配信するため仮想サーバを追加で構築したため、仮想基盤の強化とストレージ不足が解消した。[1120l]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	新型コロナウイルス感染症予防対策として新たに G Suite for Education Enterprise、Zoom を遠隔授業ツールとして導入したが、既存の e-Learning システムとあわせると 4 種類になり、授業ごとにツールを変更しなければならないなど、学生にとっては使用しにくい面がある。また、総合情報センターでも、Blackboard Learn、G Suite education for Enterprise（2020 年度新規導入）といった複数の e-Learning システムを管理運用することになり、今後はどのツールを継続して提供していくか、学内関係部署と検討していく必要がある。
1120	新たに契約した遠隔授業ツールは急遽導入が決まったため、現在、暫定運用中のため、アカウント登録等の管理業務を定型化し、スムーズに運用できる方法を検討する必要がある。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	総合情報センター規程	○
1120	b	総合情報センター事務分掌	○
1120	c	総合情報センター運営委員会規程	○
1120	d	総合情報センター運営委員会活動報告・議事録	○
1120	e	情報セキュリティ委員会規程	○
1120	f	情報セキュリティ委員会活動報告	○
1120	g	ICT 運営委員会規程	○
1120	h	ICT 運営委員会活動報告	○
1120	i	Blackboard Learn 情報セキュリティ関連 e-Learning コンテンツ	△
1120	j	新型コロナウイルス感染症予防対策ポスター（手指消毒、貼り紙等）	△
1120	k	遠隔授業ツール（Blackboard、Google Classroom）	△
1120	l	仮想サーバ（HCI）増設契約書	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学部・工学研究科 事務室
人員構成	専任・嘱託 8人、 派遣・契約事務補助員 18人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
1120	事務分掌に則り、工学部ならびに工学研究科の円滑な管理運営を行っている。 工学部教授会規程、工学研究科委員会規程に基づき、工学部教授会、工学研究科委員会を設置している。開催日を毎月第3週水曜日と定め、学部内の情報共有および連携を図っている。また学生異動等の必要な事項について、審議している[1120a] [1120b]。併せて、工学部教授会、工学研究科委員会を円滑に運営するため、主任会（2020年度は新型コロナウイルス感染症対策として、教授会開催と統合）、工学研究科専攻主任会を設置している[1120c]。各種会議開催にあたっては、工学部・工学研究科ホームページの教職員専用ページに会議資料を事前に上げることで、会議のペーパーレス化が浸透している[1120g]。また、工学部資格審査会、工学研究科資格審査会を設置し、客員教授・客員研究員の配置、大学院担当資格審査、博士学位授与等について審議している[1120 d] [1120e]。教育課程の変更等については、工学部教務委員会を設置し、必要に応じて開催、審議している [1120f]。 さらに、工学部内の各学科・教育科および工学研究科の各専攻においても、教授会、研究科委員会での議事を受け、それぞれ定期的に会議を開催し、情報の周知徹底を図っている。 なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策として、構成員15名を超える会議は、Zoomを用いた遠隔形式とし、審議事項は投票機能を利用して、適正な審議体制の構築を行った。
長所・特色 <箇条書き>	*先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No. 1120	工学部ホームページを活用して会議のペーパーレス化を推進した[1120g]
項目 No.	

課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	定例会議開催通知の回毎の起案を、年間予定として、4月にまとめて起案し、業務の効率化を図る。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	2021年度からの工学事務室体制変更およびAI数理データサイエンスセンター事務室兼務により、事務室内の業務分担が非常に曖昧になっている。年間を通じた事務室業務の洗い出しを行い、業務分担表を再度作成しながら業務効率化を推進する予定である。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	工学部事務室業務分担表を作成する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	工学部教授会議事録	○
1120	b	工学研究科委員会議事録	○
1120	c	工学研究科専攻主任会議事録	○
1120	d	工学部資格審査会議事録	○
1120	e	工学研究科資格審査会議事録	○
1120	f	工学部教務委員会議事録	○
1120	g	工学部・工学研究科ホームページ教職員専用ページ	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部事務室
人員構成	専任・嘱託 3 人、 派遣・契約事務補助員 4 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	年度毎にキャリア開発シートをもとに考課面接を行い目標と課題を共有し、持続的に改善・向上の取り組みを行っている [1120a]。
1120	主任会資料のペーパーレス化による情報伝達の迅速化、および利便性の向上を図った [1120b]。
1120	教授会、研究科委員会および主任会の運営は規程に則り適切に行っている [1120c] [1120d] [1120e]。議事録は事務で作成し、議長の決済を受けている [1120f] [1120g] [1120h] [1120i] [1120j] [1120k]。
1120	人文学部 FD・SD 委員会、紀要編集委員会、自己点検・評価委員会、中・高教職支援委員会の運営は規程に則り適切に行っている [1120l] [1120m] [1120n] [1120o]。
1120	人文学部主任会で公表する退学理由の集計等により退学者の実態を把握し各学科で共有している [1120p]。
長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	主任会資料のペーパーレス化による情報伝達の迅速化、および利便性の向上を図った [1120b]。
項目 No. 1120	人文学部主任会で公表する退学理由の集計等により退学者の実態を把握し各学科で共有している [1120p]。
課題事項 < 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	部内業務における年度重点目標設定と課題の共有の徹底、および対策の実行。
項目 No. 1120	教授会、学部内諸委員会のペーパーレス化。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、

第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120 業務の管理運営と質向上を目的に担当業務分担表を作成、共有して業務の見える化を図り、フォロー体制を構築した。また適宜、点検と評価を行い継続的に生産性の向上に努めている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	対面・遠隔等、多様な会議形式に対応できるよう教授会、諸会議のペーパーレス化を推進する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	キャリア開発シート	△
1120	b	2020年度人文学部主任会(3月)資料アップロード通知	○
1120	c	中部大学人文学部教授会規程	○
1120	d	中部大学大学院国際人間学研究科委員会規程	○
1120	e	人文学部主任会運営申し合わせ	○
1120	f	2020年度人文学部教授会議事録	○
1120	g	2020年度国際人間学研究科委員会議事録	○
1120	h	2020年度人文学部主任会議事録	○
1120	i	起案書 2020年度第13回人文学部教授会議事録	○
1120	j	起案書 2020年度第7回国際人間学研究科委員会議事録	○
1120	k	起案書 2020年度人文学部主任会(4月)議事録	○
1120	l	人文学部FD委員会規程	○
1120	m	人文学部紀要編集委員会規程	○
1120	n	人文学部自己点検・評価委員会規程	○
1120	o	人文学部中・高教職支援委員会規程	○
1120	p	人文学部 退学・休学理由表および退学者数推移と理由(20210506現在)	○

提出区分 … ○:本シートと一緒に提出する資料 △:現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	現代教育学部事務室
人員構成	専任・嘱託 3 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。		
1120	現代教育学部事務室は、学校法人中部大学管理運営規則の事務分掌に定められた業務を適正に遂行している [1120a]。 職員数が少ないため、事務室の運営に関する会議等は特に設けていない。日常的に情報共有、連携に努め、改善の視点をもって業務にあたりながら、業務の効率化・合理化を進めている。		
長所・特色	《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの		
項目 No. 1120	教員と連携した資格・免許科目の履修漏れ、留年防止対策（個人成績表・時間割の依頼） [1120b]		
項目 No. 1120	教職課程、保育士養成施設に関する庶務		
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点		
項目 No. 1120	ホームページ、学部広報誌等による学部広報の更なる充実		

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	---

1120 中部大学現代教育学部の教育・研究活動を広く社会に理解してもらい、社会とのコミュニケーションを深めること、現代教育学部内及び学生、卒業生との理解と交流を図ることを目的とし、現代教育学部広報誌「EDUCATUS」を発刊した(2019年9月に創刊号、2020年11月に第2号)。学部在学生・学園幹部・中部大学幸友会会員企業に冊子の配付を行い、冊子データは学部ホームページに掲載している[1120c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	ホームページの更なる充実等による学部広報の強化

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	事務分掌	○
1120	b	成績等提供依頼文書	○
1120	c	現代教育学部広報誌「EDUCATUS」 現代教育学部 HP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/education/news/25502/">https://www3.chubu.ac.jp/education/news/25502/</a>	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	教育実習センター
人員構成	専任・嘱託 4 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 教育実習センターは、現代教育学部が実施する小学校教育実習や春日井市・清須市教育委員会と連携して実施する観察実習等の支援、及び、教職を志向する学生支援を主たる業務としている[1120a]。これらの実習等に関する支援は、それぞれの実習の特性を鑑みて実施する「教育実習指導」という演習形式の授業として行っている[1120b]。 各実習に対応して実施する「教育実習指導」に関しては、毎年、授業開始前年度に詳細な計画を作成し、年度末には、計画に沿って活動が展開されたかどうかを検証するための会議を実施し、その議論の成果を次年度の活動計画づくりに生かしている。このように計画検討時および活動評価時に教育実習センターの業務内容を、「教育実習指導」の内容等と関連付けて点検し、業務内容の改善を不断に実施している。また、教職に関連した就職支援に関しても、実施状況や活動成果を資料化して現代教育学部教職員と情報共有する方法で、成果と課題等を確認している。[1120d][1120e][1120f] 2020 年度は、新型コロナウイルスの影響により実習に関する変更等が相次ぐなどしたために、教育実習センターの業務が膨大なものとなり、実習の円滑実施に向けた対応以外の部分に時間を割り振ることができない状況であった。なお、教育実習センターは職員数が少ないため、事務室の運営に関する会議等は特に設けていない。	
長所・特色 <<箇条書き>> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	教育実習センター教員による教員採用試験面接指導等
項目 No. 1120	教職（講師情報）・保育職求人情報を学部HPに公開 [1120c]
課題事項 <<箇条書き>> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	自習エリアの整備

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	<p>教育実習センターでは、「観察実習」「小学校教育実習」等に関する情報を一元的に管理し、より効率的な学生支援等が行える体制を整備する計画であった。しかし、新型コロナウイルスの拡大により、「観察実習」「小学校教育実習」等に関する様々な変更や問い合わせが極めて多く、また、対面による活動が大幅に制限されたことから、遠隔および郵送による方法で、情報や資料を学生に提供する必要が生じ、こうした業務に対応することに窮する状況となった。そのため、前述の「観察実習」「小学校教育実習」等に関する情報を一元的に管理する具体的な活動を進めることができなかつた。しかし、どのような情報や資料をどういった方法で管理・活用するのかという概略的な議論を進めることができ、今後、こうした議論をもとにして情報の一元的管理を実現していきたい。</p> <p>2020年度、大学内に学生が入構することを制限した時期があり、この時期が教員採用試験に向けた重要な活動時期と重なったことから、例年のように教育実習センターで対面による個人面接指導・集団面接指導・集団討議指導などを実施することが難しい状況となった。こうした状況に対応するために、Zoom等のソフトウェアを活用して、遠隔による面接を実施するなど、感染状況に柔軟に対応した活動を行うことができ、その結果、教員採用試験の合格率は例年に比べて大幅に減少することがなかつた。</p>

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	Zoomを活用するなどした非対面方式による活動の導入

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学教育実習センター規程	○
1120	b	教育実習指導シラバス	○
1120	c	講師求人情報 教育実習センターHP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/teaching_practicum/offer/">https://www3.chubu.ac.jp/teaching_practicum/offer/</a>	○
1120	d	2020年度「観察実習指導」（観察実習オリエンテーション）授業計画	○
1120	e	2020年度 小学校教育実習・小学校教育実習指導実施計画（2018年度入学生主対象）	○
1120	f	2020年度 中学校（国・数）教育実習指導 実施計画（PJ2 2018年度入学生主対象）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	学生教育部教務支援課
人員構成	専任・嘱託 12 人、 派遣・契約事務補助員 4 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
1120	本学における学生支援の方針に基づき、学生教育部教務支援課では、カリキュラム編成、履修、授業・試験運営、成績管理等を中心とする教務事務を担うことで側面的な教育支援を行うとともに、多角的・自発的な学習の「場」として学習支援室の運営や、取得単位の少ない学生への対応等、様々な修学支援を行っている[1120a]。また、教務部として、一貫した教育戦略の推進および学生支援促進をテーマに、教育課程の体系化、単位の実質化、教育効果の向上を図るため、年度重点計画を設定して教職協働で取り組んでいる[1120b]。こうした教育・修学支援における各種制度の確立や改正の是非、および実施内容の適否については、教務委員会にて審議・検証している[1120c]。
長所・特色	《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No. 1120	指導報告書による成績不振学生の把握および学科との情報共有[1120d]。
項目 No.	
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	学習支援室の在り方および利活用促進についての検討。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	学修成果を多角的に測定することの重要性について継続的に検討してきた結果、2021年度よりアセスメント・テストを実施することとなった[1120c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	アセスメント・テストおよび学びに関する調査を活用した教育課程の検証促進。
1120	本学の学生支援（修学支援）方針に基づいて年度重点目標を定めるとともに、計画案の精査、および実行された計画の適否について検証する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	教育研究の質の向上のための各種方針等 ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/policy/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/policy/</a>	○
1120	b	2020年度教育戦略部門重点事業計画	○
1120	c	2020年度教務委員会議事録	○
1120	d	指導報告書作成依頼文書	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	教職支援センター事務課
人員構成	専任・嘱託 4 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>1120 「中部大学教職支援センター規程」に掲げる目的にあるとおり、全学部の教員を志す学生の教員免許状取得、保育士資格取得に係る支援を実施している。また、2020年度の重点目標としていた、1. 教員免許取得及び保育実習に関する統一的な指導・支援、2. 卒業生教員との連携と支援を設定しているが、2020年度は新型コロナ感染対策のために十分な活動ができていない。これらについては、教職課程運営委員会・実習指導委員会での相談・報告を行うとともに、問題点の洗いだしと情報の共有を図り、教職支援センター運営委員会に報告している [1120a][1120b][1120c][1120d][1120e]。 また、2020年度に新型コロナ対策として行ったインターネットやHPを利用したガイダンスや申込みの方法について、より学生にわかりやすい工夫と活用を2021年度の重点目標とした。 1120 委員会開催や記録作成における手続きは概ね適正に行っているが、新型コロナ感染対策のため対面ではなく、メール審議での開催となった。</p>	
<p>長所・特色 &lt;&lt; 箇条書き &gt;&gt; * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1120	履修指導から成績経過までチェックし、きめ細やかな指導を行っている。
項目 No.	
<p>課題事項 &lt;&lt; 箇条書き &gt;&gt; * 改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 1120	学生に教員になるというモチベーションを高める機会の提供。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120 新型コロナウイルス感染症のため、実習時期が大幅に変更になったり、期間が短縮されたことへの対応と学生へのケアを行った。また、通常では窓口へ提出させる申込書等の書類を、インターネットでの入力に対応するなど、学生への負担を減らせるように工夫した。教員の求人情報についてもセンターHPで情報が得られるように充実させた。 また、月毎の幼児教育学科実習指導委員会において、幼稚園・保育園・施設それぞれの実習担当教員と事務員とで議題を審議し、情報共有を図るとともに指導等について改善を行った[1120d]。 2019年度に作成したガイドブックの内容の見直しを行った[1120f]。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	学生向けに有益な情報提供を行うための、ホームページの改善を検討する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学教職支援センター規程	○
1120	b	中部大学教職支援センター運営委員会規程	○
1120	c	2020年度教職課程運営委員会議事録	○
1120	d	2020年度実習指導委員会議事録	△
1120	e	2020年度教職支援センター委員会議事録	○
1120	f	2020年度入学生用教職課程ガイドブック	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	学生サポートセンター事務課
人員構成	専任・嘱託 5 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 不言実行館運営委員会を年、数回開催し、運営状況等の報告をし、自己点検を行っている。昨年度は新型コロナ感染拡大の影響を受け、年度初めの運営委員会を 7 月に開催し、前年度の利用状況等を報告し、2019 年度に受けた外部評価を報告し、委員の意見を基に改善を図った。[1120a]、[1120c]	
長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	運営委員会委員に学生委員を加え、学生の意見を取り入れている。(2020 年度は新型コロナ感染防止のための入構禁止等により加えていない) [1120b]
項目	
課題事項 < 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	学生サポートセンター改組に伴う他部署との連携強化を図り、障がいのある学生の支援強化の体制づくり。[1120d]。
項目 No. 1120	委員会開催における年間予定を概ね立てる。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	不言実行館のコモنزの管理運営を担うコモنزサポーターに加え、新設された高・大連携業務を担うキャンパスサポーターの育成を推進する。[1120e]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	他部署と連携した幅広い学生支援の体制づくりを推進する。
1120	高・大連携の支援強化を推進していく。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2020年度 第1回 不言実行館運営委員会 提出資料	○
1120	b	2020年度 不言実行館運営委員会 委員名簿	○
1120	c	2020年度 第1回 不言実行館運営委員会 議事録	△
1120	d	中部大学における障がいのある学生への支援に関する指針	○
1120	e	2020年度 学生サポーター委嘱の起案決裁書	△

提出区分 … ○:本シートと一緒に提出する資料 △:現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	研究推進企画室
人員構成	専任教員 2 人（兼務）・コーディネータ 8 人（非常勤）

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>1120</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>不正防止推進部署として、研究支援部と連携をとりながら、研究ガイドブックを活用して不正防止計画を周知するとともに、研究戦略委員会、研究支援調整会議および研究倫理委員会の活動を通して、研究不正防止を推進している。大学院生・学生向け研究倫理教育用資料として「中部大学 研究の心得」を配布した。 [1120a][1120b][1120c] [1120d] [1120e]</li> <li>知財取得・管理及び活用促進を図るため発明考案委員会を開催し、知財管理及び活用促進に対して適切に対応している。 [1120f]</li> <li>KASUGAI 産学交流プラザの交流の他、共同研究・受託研究等の契約業務支援を実施している。 [1120g]</li> <li>安全保障貿易管理の適切な運用を進めるために輸出管理委員会を開催して、各学部長に、安全保障貿易管理ハンドブックを用いて所属教員に対し安全保障貿易管理教育を進めていただくよう依頼した。また、コーディネータの提案を受けながら、個別事案について適切に対応を行った。12 月に安全保障貿易管理ハンドブックを改訂し配付した。 [1120h] [1120i]</li> <li>利益相反委員会を開催し利益相反の説明を行うとともに、利益相反が生じていないか、確認している。 [1120j]</li> <li>学内の研究シーズを把握するため、コーディネータが研究室を訪問する情報交流会を毎月開催している。コーディネータ会議を通して研究支援部と情報共有し、産官学連携活動を推進している。 [1120k]</li> <li>研究推進企画室副室長を委員長とする学術機関リポジトリ委員会活動により、附属三浦記念図書館と共に学術機関リポジトリのコンテンツの充実をはかっている。 [1120l]</li> </ol>
---

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	コーディネータが情報交流会を計画・運営するとともに、URA 組織が開催する学内研究情報交換会にも参加し、研究者の研究状況を収集し、可能な場合は支援対応策の提案を行っている。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	共同研究・受託研究それぞれに求められる支援内容が異なるため、各事案について最適な支援を引き続き行っていく。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	コーディネータが、学内で研究シーズを収集して最適な外部資金への応募を提案するとともに、企業ニーズとのマッチングを図り、共同研究・受託研究へのつなぎ込み、契約支援を実施した。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	国のガイドライン改定に対応して不正防止につとめつつ、研究者の研究不正防止の啓蒙をおこない、研究推進を継続していく。
1120	引き続きコーディネータが情報交流会や学内研究情報交換会等に参加して研究シーズを収集し、企業側のニーズとのマッチングを図るとともに、URA 組織との連携をすすめる。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	研究ガイドブック	○
1120	b	研究戦略委員会活動報告	○
1120	c	研究支援調整会議活動報告	○
1120	d	研究倫理委員会活動報告	○
1120	e	中部大学 研究の心得	○
1120	f	発明考案委員会活動報告	○
1120	g	KASUGAI 産学交流プラザパンフレット	○
1120	h	輸出管理委員会活動報告	○
1120	i	安全保障貿易管理ハンドブック	○
1120	j	利益相反委員会活動報告	○
1120	k	コーディネータ会議活動報告	○
1120	l	学術機関リポジトリ運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	研究支援部 産官学連携推進課
人員構成	専任・嘱託 4人、 派遣・契約事務補助員 0人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
1120	<p>2020年6月8日開催の研究戦略委員会で承認された「産学連携目標・計画について」[1120a]に基づき研究支援活動を実施している。また、結果については研究戦略委員会に報告し、自己点検している。主な内容は次の通り。</p> <p>1. 研究活動の多面的な展開支援</p> <p>①特別研究費[1120b]や出版助成[1120c]など学内研究活動の支援を通して学内研究の活性化などを実施。</p> <p>②「中部大学研究紹介2020」の冊子を作成・配付し、研究活動のアピールに努めている。(HPにも掲載) [1120d]</p> <p>③特許出願により知的財産の権利化支援を行ない、また成果有体物の授受の管理を行なっている。</p> <p>④「安全保障貿易管理ガイドブック(2020年11月発行)」に基づき、技術や貨物、情報の提供について、適切に対応している。[1120e]</p> <p>⑤利益相反委員会、発明考案委員会について事務局として適切に対応している。[1120f] [1120g]</p> <p>2. 教育研究外部資金の確保と推進</p> <p>①受託研究、共同研究、奨学寄附金等の取り扱いを記載した「産学連携ハンドブック2020」を作成し、民間企業との契約締結をすすめ、研究費の受け入れにあたっている。[1120h]</p> <p>3. 社会連携研究活動の展開</p> <p>①連携協定先の自治体等が主催する展示会など各地の産官学連携活動に参画して連携を図っている。[1120i]</p>
<p>長所・特色 &lt;&lt; 箇条書き &gt;&gt; * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1120	<p>「中部大学研究紹介2020」を作成し、全学の研究シーズ紹介を行っている。[1120d]</p>

課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	受託研究・共同研究の外部研究費の更なる獲得を目指す。
項目 No. 1120	共同研究の期間終了時や期間延長に関する手続きを円滑に進める。
項目 No. 1120	事務部における業務内容の点検方法についての見える化を図る。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	学内研究者に対する安全保障貿易管理へのご理解ご協力の促進に活用するため、輸出管理担当コーディネータと相談の上、「安全保障貿易管理ガイドブック」の見直しを行い、全教員へ配付した。[1120e]

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	研究企画推進室所属のコーディネータと連携し、企業等からの技術相談などの産官学連携活動を通して、受託研究・共同研究の契約促進を図り、外部研究費の更なる獲得を目指す。
1120	共同研究の期間終了・延長に関する手続きを円滑に進めるため、研究者へ事前に期間終了アナウンスを行い情報共有に努める。また、終了時は、共同研究完了報告書の提出状況を確認する。
1120	事務部における業務内容の点検方法として、定期的に課内で会合を開き、相互の業務についてガールの予定表や資料を用いながら理解を深め意見交換を行い、情報を共有する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	研究戦略委員会 20200608_資料1. 産学連携目標・計画について	○
1120	b	2020 年度中部大学特別研究費応募要領	○
1120	c	2020 年度中部大学出版助成公募要領	○
1120	d	中部大学研究紹介 2020 (HP 掲載) <a href="https://www2.chubu.ac.jp/digibook/researchers/html5.html#page=1">https://www2.chubu.ac.jp/digibook/researchers/html5.html#page=1</a>	○
1120	e	安全保障貿易管理ハンドブック (HP 掲載/教職員専用ページ) <a href="https://www3.chubu.ac.jp/collaboration/faculty_staff/faculty_only/anzen/">https://www3.chubu.ac.jp/collaboration/faculty_staff/faculty_only/anzen/</a>	○
1120	f	2020 年度利益相反委員会活動報告	○
1120	g	2020 年度発明考案委員会活動報告	○
1120	h	産学連携ハンドブック 2020 (HP 掲載) <a href="https://www2.chubu.ac.jp/digibook/collaboration_guide/html5.html#page=1">https://www2.chubu.ac.jp/digibook/collaboration_guide/html5.html#page=1</a>	○
1120	i	2020 年度展示会・商談会参加一覧	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	研究支援部 研究支援課
人員構成	専任・嘱託 9 人、 派遣・契約事務補助員 3 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>2020 年 6 月 8 日開催の研究戦略委員会で承認された「産学連携目標・計画について」[1120a]に基づき支援を実施している。また、結果については研究戦略委員会に報告し、自己点検している。主な内容は次の通り。</p>	
<p>1. 研究活動の多面的な展開支援</p> <p>① 研究推進アドバイザー委員による科研費等のアドバイスを通して研究費の獲得支援を実施。[1120g]</p> <p>② 研究倫理委員会、研究戦略委員会、研究支援調整会議について事務局として適切に対応している。[1120b][1120c][1120d]</p>	
<p>2. 教育研究外部資金の確保と推進</p> <p>① 外部資金獲得のために、「研究ガイドブック」を作成し、公的研究費や財団助成金等の申請支援を実施している。[1120e]</p> <p>② 研究不正防止への取り組みとして、「研究ガイドブック」「中部大学における科学研究の健全な発展のために」を活用して研究不正防止活動に努めている。[1120e][1120f]</p>	
<p>長所・特色 &lt;&lt; 箇条書き &gt;&gt; * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1120	「研究ガイドブック」等を作成し、不正防止に対して積極的に取り組んでいる。[1120e]
項目 No. 1120	科研費不採択者に向けて特別研究費制度を設け、学内研究の活性化を図っている。[1120g]
<p>課題事項 &lt;&lt; 箇条書き &gt;&gt; * 改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 1120	公的研究費や財団助成金等の申請数向上を図り、外部資金の更なる獲得を目指す。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	1. 外部資金獲得の増加を目指して、研究推進アドバイザー委員会による科研費の申請書添削等を実施した。[1120g] 2. 研究不正防止の取り組みを強化するために「研究ガイドブック」等の見直しを行った。[1120e] 3. 業務の効率化を狙いとして、配分機関による特色を考慮し、担当業務の専門性（公的資金申請チーム、公的資金予算執行管理チーム）を今まで以上に高めることにチャレンジした。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	公的研究費や財団助成金等の申請数向上を図り、外部資金の更なる獲得を目指す。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	産学連携目標・計画について	○
1120	b	研究戦略委員会活動報告	○
1120	c	研究支援調整会議活動報告	○
1120	d	研究倫理委員会議事録	○
1120	e	研究ガイドブック	○
1120	f	中部大学における科学技術の健全な発展のために	○
1120	g	研究推進アドバイザー委員会委員による申請書添削	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	中部大学出版室
人員構成	専任・嘱託 1 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に『S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている』『A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある』『B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い』『C：今後取り組んでいく』の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて『自己点検・評価項目』毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>1120 出版物『アリーナ』及び中部大学ブックシリーズ『アクタ』のうち『アクタ』は、「中部大学ブックシリーズ出版要綱」「中部大学ブックシリーズ出版要綱施行細則」[1120a、1120b]にもとづき、公募要領を作成し、公募、審査し出版している[1120c]。審査は、中部大学ブックシリーズ審査会を設けて適正に実施している[1120d]。公募要領、要綱等の見直しは、研究戦略委員会の議を経て実行・点検している[1120e]。『アリーナ』は継続出版で独立している。2020 年度の出版物は、『アリーナ』23 号（2020 年 11 月 19 日発売）及び中部大学ブックシリーズ『アクタ』33 号（2020 年 12 月 20 日発売）と 34 号（2021 年 3 月 31 日発売）。</p>	
<p>長所・特色 &lt; 箇条書き &gt; * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1120	中部大学ブックシリーズ『アクタ』は、学術研究の成果、シンポジウムなどの記録を出版し、教育職員の教育研究活動を推進[1120c]。
<p>課題事項 &lt; 箇条書き &gt; * 改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 1120	中部大学ブックシリーズ『アクタ』の出版スケジュールの見直し[1120c]
項目 No. 1120	学外への発信・広報力の強化[1120f]

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	ブックシリーズ審査会を常置し、透明化・公平化を図り、教育職員の教育研究活動の助成に貢献した。[1120d]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	中部大学ブックシリーズ『アクタ』について、教育職員へ周知させるとともに、内容を十分検討し、公平かつ適正に審査を行えるようスケジュールを見直す[1120c]。
1120	ホームページ、イベント等を積極的に活用し、出版物の学外への発信・広報力の強化を図る[1120 f]。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学ブックシリーズ出版要綱	○
1120	b	中部大学ブックシリーズ出版要綱施行細則	○
1120	c	2021 年度中部大学ブックシリーズ出版公募要領	○
1120	d	2020 年度中部大学ブックシリーズ審査会議事録	○
1120	e	第 5 回研究戦略委員会議事録	○
1120	f	中部大学ブックシリーズ『アクタ』（HP掲載） <a href="https://www3.chubu.ac.jp/publication/acta/">https://www3.chubu.ac.jp/publication/acta/</a> 出版物『アリーナ』（HP掲載） <a href="https://www3.chubu.ac.jp/publication/arena/">https://www3.chubu.ac.jp/publication/arena/</a>	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	理事長室
人員構成	専任・嘱託 6 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	S
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	理事長、理事の方針に基づく、経営計画の策定、経営課題の分析・対策立案を行っている。その内容については、必要に応じて運営協議会、評議員会、理事会で審議される。
1120	高大課題検討委員会では、併設校担当理事を中心に「学園ビジョン 2015-2020」実行計画に掲げる目標(中部大学への進学者数増加等)達成に向け、高大連携授業、高大連携入試制度、学園連携フォーラムなど、新規施策を立案・実行している。※2020 年度はコロナ禍の影響を受け、年間 3 回の開催(内 1 回は書面開催)にとどまった。
長所・特色 <箇条書き> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	管理面、教学面、所属を限定せず、学園全体の俯瞰的立場から業務を遂行している。
項目 No. 1120	学園将来構想検討会議にて、大学の学部改革等に関する「教育改革に係る計画の実行方針」をまとめた。[1120d]、[1120e] また、その実行方針を盛り込んだ「学園ビジョン 2021-2025」実行計画を策定し、理事会の承認を得た。[1120c]  高大課題検討委員会にて、新たに併設校推薦入試による入学者を対象としたアンケートを実施。[1120f]、[1120g]、[1120h]

課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	学園の方針を実現させるため、具体の施策を責任部局と連携した上、進捗管理を行う。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	学園として定めた「学園ビジョン 2015-2020」実行計画は、毎年、その進捗管理を行っている。[1120a] [1120b] 2020 年度は最終年度の 5 年目を迎えることになり、その成果、課題を確認した上、総括を行う。また、「学園ビジョン 2021」における実行計画の策定を行った。 [1120c]
1120	併設校推薦入試による入学者を対象としたアンケート実施結果をもとに、学生が安心・安全なキャンパスライフを過ごせるよう、今後のサポート体制の在り方等について前向きな議論を行った。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	理事長、理事の方針に基づき、学園の抱える諸課題に臨機応変に対応していく。
1120	「学園ビジョン 2021-2025」実行計画を着実に実行すべく、適宜、責任部局と連携した上、進捗管理を行う。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	学園ビジョン 2015-2020 実行計画進捗状況 (2020. 5. 1)	○
※1120	b	学園ビジョン 2015-2020 実行計画進捗状況 資料編 (2020. 5. 1)	○
1120	c	学園ビジョン 2021-2025 実行計画	○
1120	d	教育改革に係る計画の実行方針	○
1120	e	第 6 回学園将来構想検討会議 記録 (2021. 1. 19)	○
1120	f	2020 年度第 1 回高大課題検討委員会記録 (2020. 10. 23)	○
1120	g	2020 年度第 2 回高大課題検討委員会記録 (2020. 12. 14)	○
1120	h	2020 年度第 3 回高大課題検討委員会 (書面開催) (2021. 3. 8)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	学園広報部制作課
人員構成	専任・嘱託 5 人、 派遣・契約事務補助員 2 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120-(1) 事務分掌に規定された課の業務（「出版物等の広報物の制作に関すること」「ホームページ運営に関すること」「ロゴ、大学グッズ等の企画、開発、制作及び管理に関すること」）を滞りなく遂行するため、制作課内での業務分担表を作成して、担当業務を明確化し、主担当者以外の者、補助となる担当者または統括者が業務をチェックする体制にしている。[1120a]。	
1120-(2) 「学園広報に関する出版物の編集及び発行に関すること」の業務のうち、「学園報」については紙での発行は無く、学内でのホームページ公開・閲覧に留まるため、内規を制定した上で編集委員・通信員は組織しているが、会合としての委員会は開催せず、編集委員・通信員による公開前のチェックのみとしている。内容に関しては毎号、学内公開前に起案・決裁を得ている[1120b] [1120c]。定期刊行物の「ANTENNA」と「中部大学通信（ウプト）」は内規を制定した上、編集委員を委嘱し、原則として発行日または発行日の翌日に編集委員会を開催し、発行号についての反省を行い、次号の企画について検討し、承認を得ている。また、「ウプト」については教職員による編集委員会とは別に学生編集委員会を組織し、学生主体で運営を行い、企画会議の開催、議事録の作成、取材・写真撮影、原稿作成等一連の編集作業に携わっている[1120d] [1120e] [1120f] [1120g] [1120h] [1120i] [1120j] [1120k]。ホームページについてはホームページ運営委員会に置いて中部大学ホームページ管理・運用規程に則り運営してきたが、2020 年度は Web サイトリニューアルの作業に入ってから休止状態になり、委員会が開催されていない。[1120i]。	
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	定期刊行物の編集委員会による企画案の承認と発行前のチェックの体制が整い、機能している [1120d] [1120e] [1120f] [1120g] [1120h] [1120i]。
項目 No. 1120	学生対象の刊行物である「ウプト」で学生編集委員会を組織し、学生主体で運営している。また、コ

	コロナ禍によりリモート取材にも取り組んで誌面を作成した。
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	課内の業務担当表を作成して滞りなく業務が遂行するようにしているが、年度の重点目標は明文化されていない。
項目 No. 1120	ホームページ運営委員会がサイトリニューアルの作業に入ってから休止状態になっている。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	「学園報」は編集委員会内規を制定した上、編集委員・通信員を委嘱し毎号発行に関する起案をしているが、2019年度から最終決裁者を理事長から編集委員長に変更したことで決裁者が事務職員のみとなったことから、2020年度は電子決済に切り替え、業務の効率化・迅速化を図った。 「ウプト」「ANTENNA」についても編集委員会を組織し毎号発行に関する起案をしているが、最終決裁者が理事長、学長であったのを、掲載内容が学園の動きを簡潔に記録するもので新規案件でないことから、発行に関する最終決裁者を編集委員長にし、業務の効率化・迅速化を図った。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	業務分担表に加え、目標を明文化して意識改革に取り組む。
1120	ホームページ運営委員会に替わって別組織・委員会をリニューアルオープン後に立ち上げ、リニューアル後の運用に合わせて規程の改正も行う。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	制作課業務分担表	○
1120	b	学園報編集委員会内規	○
1120	c	学園報編集委員・通信員	○
1120	d	ANTENNA編集委員会内規	○
1120	e	ANTENNA編集委員	○
1120	f	ANTENNA編集委員会議事録	○
1120	g	ウプト編集委員会内規	○
1120	h	ウプト編集委員	○
1120	i	ウプト編集委員会議事録	○
1120	j	ウプト学生編集委員	△
1120	k	ウプト学生編集委員会議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	財務部財務課
人員構成	専任・嘱託 4 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

**基準 11 大学独自の評価項目**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
1120	財務課が担当する業務は、主に予算・決算・補助金申請・税務である [1120a]。これらの業務に遺漏なく対応するため、業務一覧を作成して計画的に業務を進めている [1120b]。財務課の業務特性として、日次業務が少なく年次業務が多いことが挙げられる。業務の習得に時間を要するため、各業務には複数の担当者を設定し、課の業務が継続できなくなるリスクを抑えるように努めている。また、課全体の業務カバー率を数値化し、業務対応可能状況の「見える化」に取り組んでいる [1120b]。業務一覧は毎年見直しており、全員が課の業務の全体像を再確認するとともに、対応可能な業務の拡大に繋げている。
1120	予算原案及び予算編成方針案の検討を目的とした予算・財政検討委員会は、理事長に予算原案等を提出する前に開催され、委員により検討されている [1120c][1120d][1120e][1120g]。
長所・特色	< 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No. 1120	担当業務一覧による業務把握[1120b]。
項目 No.	
課題事項	< 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	4 月～5 月に集中する業務(予算設定、決算、補助金申請)の負荷分散[1120b]。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	進行中の業務及びその期日等を課員全員で共有するため、2018年度からグループウェア(ガルーン)のスケジュール管理以外の機能を活用している。財務課におけるガルーンの使用目的は、1)財務部(財務課・会計課)メンバーのスケジュール確認による全体像の把握、2)共有 ToDo 機能による進行中の業務と担当者の把握、3)掲示板機能による部門目標及び連絡事項の確認の3つである。自身のスケジュールや担当業務の期日確認に加え、他のメンバーのスケジュールや業務を認識することで、課の業務の全体像を把握するように努めている。また、これらの取組により、業務の担当者が長期不在になっても進行中の業務(対応すべき業務)を把握できる体制となっている[1120f]。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	業務の更なる効率化と業務カバー率の向上。
1120	予算執行による効果を分析する仕組みの検討。予算申請額と実績の乖離を検証し、各部署における計画的な予算執行の意識の向上を狙う。特に新規の経常的な予算申請案件について、実績額を検証して翌年度上限額に反映する。

### 4. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	財務課事務分掌 2020	○
1120	b	財務課業務一覧・担当 2020	○
1120	c	予算の編成及び執行事務細則	○
1120	d	予算・財政検討委員会細則	○
※1120	e	予算・財政検討委員会議事録(2020年度第4回)	○
※1120	f	グループウェア情報共有	○
1120	g	予算・財政検討委員会議事録(2020年度第1回/第2回/第3回)	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	財務部会計課
人員構成	専任・嘱託 5 人、 派遣・契約事務補助員 4 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。		
1120 (1)	現預金の入出金については、「入出金明細(金融機関システム)・取引照合表(金融機関発行)」により日次管理を行い、「現預金残高月計表」にて月次報告を実施。学納金等の収納については、学則他諸規定に則り収納 処理を行い、毎月「授業料等納入状況報告書」により報告を実施し管理を行っている。 また、資金運用等については、「取引残高報告書」にて月次管理を行い、リスク回避に備えて、四半期ごとに各証券会社から格付け及び時価情報を収集し、「長期運用資産について(報告)」にて報告を実施し管理を行っている。[1120a, 1120b]		
1120 (2)	三浦記念基金及び 70 周年記念奨学基金の各委員会については、大きな制度変更等が無い限り、稟議書による書面開催としている。		
長所・特色	< 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの		
項目 No. 1120	金融機関の資金管理システムによる日々の入出金管理と金融機関発行の取引照合表による月次管理		
項目 No. 1120	資産運用における有価証券の格付け及び時価情報（各証券会社毎）の定期収集		
課題事項	< 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点		
項目 No. 1120	担当ごとに固定化するデイリー業務・定期業務のシェア（複数担当者の配置、ローテーション、マニュアル共有化等）		

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	人事異動による構成員の変更に伴い、課内担当業務の見直しを実施。 各担当者間とチーム毎における業務の負荷調整を行うと同時に、各々の業務マニュアルの共有化を図る。 また、担当業務の課内ローテーションにより各人が幅広い業務経験を積むことを継続していく。[1120c, 1120d]
1120	現金支給の振込化やデータベース管理（貸費奨学金・資産運用）の促進による業務の効率化を志向することにより、課員の負荷調整やローテーション、職域拡大に繋げることとする。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	業務の効率化を推進すると共に、適宜業務の負荷調整を実施し会計業務の標準化を志向する体制とする。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	時価情報	△
1120	b	格付け一覧	△
1120	c	会計課事務分掌 2020	○
1120	d	2020 年度財務部会計課担当業務分担	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	大学企画部 大学 IR 推進課
人員構成	専任・嘱託 2人、 派遣・契約事務補助員 0人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	委員会なし

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
1120	<p>大学企画室規程および事務分掌に基づき、本学の内部質保証の推進を図ることを目的として、情報データの収集・調査・分析等を実施している [1120a] [1120b]。大学 IR 打合せ、大学 IR 拡大打合せ、大学企画室全体打合せ、大学企画室会議において、業務内容を随時検証し、自己点検・評価を行っている。[1120c] [1120d] [1120e] [1120f]。</p> <p>2020 年度は、「学修成果に関する調査」の結果をグラフ化して各学科に提供し、学修成果の可視化を図ることで、教学の改善・向上に繋がる支援をした[1120g]。学修成果の把握・評価をさらに実質化するため、2019 年に策定された「アセスメント・ポリシー」に基づき、その評価指標の 1 つである「学生アンケート」を実行すべく、これまで実施してきた「学修成果に関する調査」を大幅に見直し、学修行動や成果を調査すると共に学生自身の振り返りと気づきの機会となるような設問を準備し、「学びに関する調査」として、2021 年度から実施する予定である[1120h] [1120i] [1120j]。「学びに関する調査」では、在学生に『中部大学に期待すること、より良くするためのアイデア』を募る予定である。得られたアイデアならびに調査結果を本学の改善・向上に繋げていくため、有効な分析や情報共有の方法を検討することが今後の課題である。</p> <p>また、学内の情報データの収集と提供を適切かつ円滑にするため、2020 年 3 月に「大学 IR 推進部が取り扱う情報データに関する申合せ」および「大学 IR 推進部が取り扱う情報データの提供要領」を定めた [1120k] [1120l]。これらに基づき、積極的に関連部署から情報データを収集し、各種分析結果を学内に展開することで、教育活動の改善・向上の支援に努めていく。</p>
<p>長所・特色 &lt;&lt;箇条書き&gt;&gt; * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1120	学修行動や成果を調査すると共に学生自身の振り返りと気づきの機会となる新たな学生アンケート

	ト「学びに関する調査」を準備し、2021年度から実施する[1120i] [1120j]。
項目 No.	
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	積極的に関連部署から情報データを収集し、各種分析結果を学内に展開していく。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	「学修成果に関する調査」を見直し、学修行動や成果を調査すると共に学生自身の振り返りと気づきの機会となる設問を準備し、2021年度から「学びに関する調査」として毎学期の履修申告時に実施する予定である[1120i] [1120j]。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	「学びに関する調査」を実施し、集計結果を学生や教職員へ公表する。調査結果を本学の改善・向上に役立てていく。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学 大学企画室規程	○
1120	b	事務分掌（抜粋-大学企画部）	○
1120	c	大学 IR 推進部打合せ記録-2020 年度	○
1120	d	大学 IR 拡大打合せ記録-2020 年度	○
1120	e	大学企画室全体打合せ議事録-2020 年度	○
1120	f	大学企画室会議議事録-2020 年度	○
1120	g	「学修成果に関する調査」の結果-学科提供資料	○
1120	h	中部大学アセスメント・ポリシー	○
1120	i	「学びに関する調査」の趣旨・目的	○
1120	j	「学びに関する調査」設問	○
1120	k	大学 IR 推進部が取り扱う情報データに関する申合せ	○
1120	l	大学 IR 推進部が取り扱う情報データの提供要領	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度 (対象: 2020 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際・地域推進部 地域連携課
人員構成	専任・嘱託 3 人、派遣・契約事務補助員 0 人

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織 (センター、事務部等) の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で (誰が)」「どのように (指標・方法)」検証を行い、「どのように (基準)」自己点検していますか。</p> <p>1120 2020 年度第 1 回国際・地域戦略部門会議にて、中部大学地域連携センター規程 (案) が承認され、同規程「第 2 条 センターは、地域と協働して、地域社会に貢献することができる実践的人材の育成と各種事業の推進を図り、もって本学における教育研究と地域社会の発展に寄与することを目的とする。」に基づき、2020 年度は地域連携センター運営委員会を 4 回実施し、センター事業等の改善・向上に向けて審議を行っている [1120a] [1120b] [1120c] [1120d] [1120e] [1120f]。</p> <p>1120 2020 年度地域連携センター事業は、2019 年度学長ヒアリングにて提出した 2020 年度以降における重点事業計画に則し計画し、2020 年度第 1 回国際・地域戦略部門会議にて、2020 年度事業・業務計画を報告し、以降同会議において現状報告等を行い、委員による確認、向上の取組みに向けて提言等が行われている [1120a] [1120g] [1120h] [1120i] [1120j] [1120k] [1120l]。</p> <p>1120 COC 事業については、COC 推進委員会を開催 (年 5 回) し、事業計画、その他運営に関する重要事項を検討・審議している。活動内容については、成果報告書 (冊子) に纏め学内外へ配付している (HP にも掲載) [1120m] [1120n] [1120o] [1120p] [1120q] [1120r]。</p> <p>自己点検・評価については学長を委員長として、委員を学部長、研究科長から構成される内部評価委員会を設置しており、2021 年 3 月 3 日の同委員会において、2020 年度成果報告書に基づき、点検、評価が行われた。委員の意見を、今後の展開と発展を考える上での参考としている [1120r] [1120s]。</p> <p>COC+ (プラス) 事業は 2019 年度に文科省補助金が終了したが、2020 年度は同事業の活動を COC 事業及び産業界ニーズ事業に振り分け、地域創成メディエーター及びリスク予防管理士の 2 つの人材育成プログラムを強化することで進めていくことが、2019 年度第 6 回 COC 推進委員会、2019 年度第 2 回産業界ニーズ運営委員会で承認されて</p>
---

<p>いる[1120t] [1120u]。          産業界ニーズ事業については、産業界ニーズ運営委員会を開催（年2回）し、事業計画、その他運営に関する重要事項を検討している[1120v] [1120w]。</p>	
<p>長所・特色 &lt;箇条書き&gt; *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 1120	春日井高等学校が指定校として採択された「あいちSTEMハイスクール研究指定事業」について、本学のSTEM教育分野の各教員が高校教員と連携を図りながら、4分野全てにわたる系統的なプログラムの共同開発を目指し、生徒への講義や課題研究の指導を行っている。また、円滑な連携や事業運営のため、高校と大学の教員による事業推進会議を開催している。[1120x] [1120y]。
項目 No. 1120	COC組織体制は、学長を総括責任者とし、全学体制を構築している。全学部からの委員を含むCOC推進委員会を設置し、教職協働で事業推進にあたっている。[1120z]
項目 No. 1120	本学の建学の精神「あてになる人間」育成プログラムとして、学長認定資格である「地域創成メディエーター」「地域活性化リーダー」の育成を教職協働で行うとともに、地域貢献、地域活性化に取り組んでいる。[1120r]
項目 No. 1120	工学部・応用生物学部・生命健康科学部の学生を対象に学長認定資格「リスク予防管理士」の取得機会を与え、各学部の関連企業にとっての「リスク予防とリスク管理」を総合的にかつ実践的に修得した実践的技術者の育成を行い、中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育力の強化を図っている。[1120z1]
<p>課題事項 &lt;箇条書き&gt; *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 1120	地域創成メディエーター、リスク予防管理士の学内外の認知度をあげるため、広報を強化する。
項目 No. 1120	社会・地域貢献の取組について学内外への効果的なPRを行う。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
1120	地域連携センターのWebサイトを作成し、地域社会と大学を繋ぐ窓口として、さまざまな地域連携の取組等を学内外に発信し、地域に根差した大学として浸透するよう広報している。[1120z2]。
1120	新型コロナウイルス感染拡大の状況下での、「地域創成メディエーター」「地域活性化リーダー」の資格取得については、学生の認定要件の活動に支障が出ないように、PBLゼミ、「動く」の活動の一部をオンライン形式で開催したり、成果発表会も密を避けるためメモリアルホールに変更する等対応を行った。[1120r]。
1120	同様に「リスク管理予防士」についても、特別セミナー、企業現場教育等をWeb配信で実施する等、学生の資格取得の活動に支障がないよう対応した。[1120v] [1120w]。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	大学基準協会による2020年度大学評価「9社会連携・社会貢献」において、COC継続事業が地域の活性化及び、地域で活躍する人材育成に貢献していることで、高く評価され、今後も活動が期待されているが、教員、学生の認知度については学部学科に偏りがみられる。学内外への広報を強化し、どの学部の学生も公平に資格取得の機会を得、またより多くの教員の活動への参加や事業の充実を図り、地域に根差す大学の取組みとして、大学の特色としてPRに繋げる[1120z3]。
1120	地域連携センターとエクステンションセンターの統合によるWebサイトの見直しと、パンフレット等の作成を行い、地域連携事業、COC継続事業、リカレント教育事業等、センター事業全般について、学内外に積極的にPRする。

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	記 号		
1120	a	2020 年度第 1 回国際・地域推進部戦略部門会議議事録	○
1120	b	中部大学地域連携センター規程	○
1120	c	2020 年度第 1 回地域連携センター運営委員会議事録	○
1120	d	2020 年度第 2 回地域連携センター運営委員会議事録	○
1120	e	2020 年度第 3 回地域連携センター運営委員会議事録	○
1120	f	2020 年度第 4 回地域連携センター運営委員会議事録	○
1120	g	2020 年度以降における学部等重点事業計画について（国際・地域戦略部門）	○
1120	h	2020 年度事業・業務計画（地域連携センター）	○
1120	i	2020 年度第 2 回国際・地域推進部戦略部門会議議事録	○
1120	j	2020 年度第 3 回国際・地域推進部戦略部門会議議事録	○
1120	k	2020 年度第 4 回国際・地域推進部戦略部門会議議事録	○
1120	l	2020 年度第 5 回国際・地域推進部戦略部門会議議事録	○
1120	m	第 48 回（2020 年度第 1 回）COC 推進委員会議事録	○
1120	n	第 49 回（2020 年度第 2 回）COC 推進委員会議事録	○
1120	o	第 50 回（2020 年度第 3 回）COC 推進委員会議事録	○
1120	p	第 51 回（2020 年度第 4 回）COC 推進委員会議事録	○
1120	q	第 52 回（2020 年度第 5 回）COC 推進委員会議事録	○
1120	r	2020 年度成果報告書 ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/coc/report/">https://www3.chubu.ac.jp/coc/report/</a>	○
1120	s	2020 年度 第 8 回COC 事業内部評価委員会議事録	○
1120	t	第 47 回（2019 年度第 6 回）COC 推進委員会議事録	○
1120	u	中部大学「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」2019 年度第 2 回運営委員会議事録	○
1120	v	中部大学「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」2020 年度第 1 回運営委員会議事録	○
1120	w	中部大学「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」2020 年度第 2 回運営委員会議事録	○
1120	x	春日井高等学校「令和 2 年度 あいち STEM ハイスクール研究指定事業」における本学教員の派遣について （起案）	○
1120	y	2020 年度第 1 回春日井高等学校 S T E Mハイスクール研究指定事業推進会議議事録	△
1120	z	2020 年度成果報告書（該当箇所 p. 7-9） ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/coc/report/">https://www3.chubu.ac.jp/coc/report/</a> *PDF ファイルは「1120n」を参照	○
1120	z1	中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化 ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/expert_training/">https://www3.chubu.ac.jp/expert_training/</a>	○
1120	z2	地域連携センター ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/community/">https://www3.chubu.ac.jp/community/</a>	○
1120	z3	2020 年度 機関別認証評価受信結果 中部大学（該当箇所 p. 22-24, 41） ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/14173/14173_70b9fffc35e5e4bca12e1a5836b2aca0.pdf">https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/14173/14173_70b9fffc35e5e4bca12e1a5836b2aca0.pdf</a>	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管